



芸大通信 .

Vol. 013

京都市立芸術大学広報誌 2010年 1月

Welcome

学長ごあいさつ



学長 潮江 宏三

京都市立芸術大学は、1880年に「日本最初京都画学校」として誕生し、130年の歴史を積み重ねてきた伝統ある大学です。戦後誕生した市立音楽短期大学を音楽学部として加えて、総合的な芸術大学となってからも、すでに40年が経過し、まさに豊かな実りのときを迎えています。さらに、近年は、美術・音楽の両大学院の整備はもちろんのこと、日本伝統音楽研究センターも備え、芸術の高等教育研究機関としての体制を整えてきました。このように、日本の近代化の歩みと重なり合う京都市立芸術大学の歴史は、文字通り、日本近代芸術の歴史そのものであると誇り得るものです。

そのようななかで、わたしたちは、芸術が変わることのない人間的な営みであることを確信しつつ、常に感性の自由な働きを可能にする心の構えの醸成に配慮し、時代の変化を鋭敏に受け止め、次代を担う若者、とりわけ数多くの芸術家を送り出してきました。その成果として、伝統を踏まえつつ新しい「京都芸術」を創造し続けています。

この2010年の7月1日には、京都市立芸術大学は創立130周年を迎えます。歴史と伝統を踏まえつつ、未来へ広がる発展に繋げるべく、「市民とともに130周年—原点から未来へ、そして世界へ」をテーマにさまざまな事業を、この1年あまりの期間を通じて展開していきます。京都を代表する二つの美術館での記念展や記念オペラ、記念演奏会、記念講座などが目白押しです。幸い、この記念すべき年に、堀川御池に「京都市立芸術大学ギャラリー」も開設されます。美術学部、音楽学部、日本伝統音楽研究センターの3機関による事業だけでなく、美術学部音楽学部の同窓会の先輩たちも、記念事業を計画していただいています。この130周年事業全体を通して、京都芸大の未来へつなげる力を市民の皆様にお見せできるものと確信しております。

わたしたちは、これからの若い世代の人たちが、最高の芸術の学びの場である、美と文化の町、京都の伝統を引き継いだ京都芸大に集い、「京都芸術」の系譜に連なり、さらには先輩たちの足跡を超えて歩むようになることを期待しています。

Contents

p.4 *History* 本学の歴史

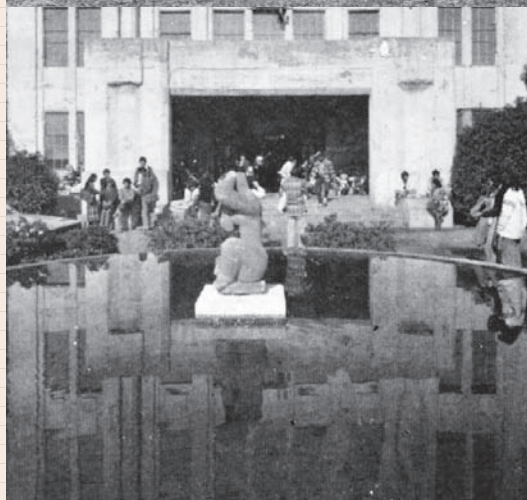
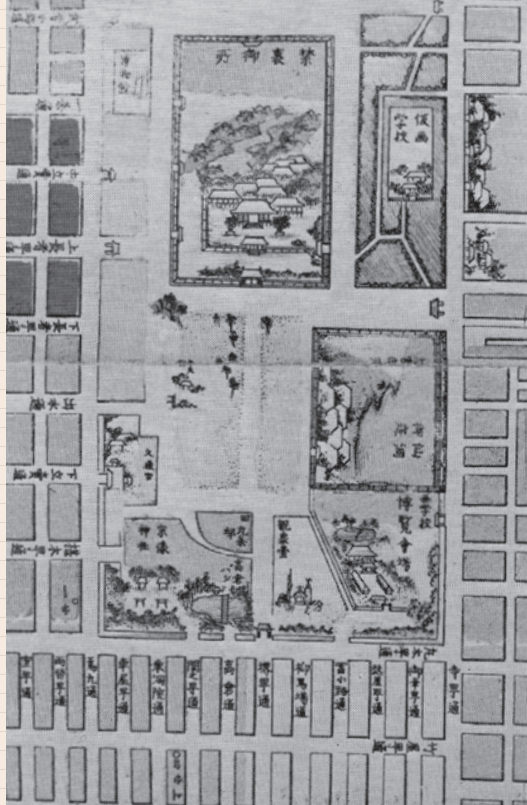
p.6 *Characteristic* 本学の特徴

p.8 *Schedule* 今後の予定



130周年記念事業の一環「東アジアにおける岩彩画の展開」(2009年11月)
上海大学美術学院99創意中心画廊にて。上海での展示後は2010年6月に京都へ巡回予定。

開設当時の様子（百年史より抜粋）



130周年の伝統と歩み

明治13年7月1日京都府画学校として岡崎に開校した現美術学部と、昭和27年4月1日に全国初の公立音楽大学として設置された現音楽学部が、昭和44年に統合され、昭和55年4月、大枝沓掛への移転に伴い芸術の総合大学としての体制を整え、新しい歴史の第一歩を踏み出しました。

そして2010年、創立130周年を迎える節目として、今まで以上に芸術界・産業界で活躍する優れた人材を輩出することは、本学発足当初からの理念の核たるところです。さらに記念事業としてさまざまな催しを企画しているほか、地域に根付いた大学のあり方をこれまで以上に追求するためにも、市内中心地にサテライトギャラリーを設置するなど、歴史深い大学として、市民をはじめとする方々へ還元できるような環境作りをすすめていくよう、より一層努力していきます。

130年の伝統と歴史

- 1880 明治13年 京都府画学校創立（7月1日開校式）
- 1889 明治22年 京都市画学校と改称
- 1891 明治24年 京都市美術学校と改称
- 1894 明治27年 京都市美術工芸学校（美工）と改称
- 1909 明治42年 京都市立絵画専門学校（絵専）創立
- 1945 昭和20年 絵専を京都市立美術専門学校と改称
- 1948 昭和23年 美工を京都市立美術高等学校と改称
- 1950 昭和25年 京都市立美術大学創立
- 1952 昭和27年 京都市立音楽短期大学創立
- 1956 昭和31年 音短大が左京区聖護院の市警察学校跡へ移転
- 1969 昭和44年 京都市立芸術大学開学
- 1980 昭和55年 大学院美術研究科修士課程設置
西京区大枝沓掛へ移転
- 1986 昭和61年 大学院音楽研究科修士課程設置
- 2000 平成12年 大学院美術研究科博士（後期）課程設置
日本伝統音楽研究センター開設
創立120周年を迎える
- 2003 平成15年 大学院音楽研究科博士（後期）課程設置
- 2010 平成22年 創立130周年を迎える

History

本学の歴史

本学は現在、美術学部と音楽学部、大学院美術研究科と音楽研究科、日本伝統音楽研究センターから成り、それぞれ次のような歴史を持っています。

美術学部の歴史は1880年に創設された京都府画学校まで遡ります。1889年にこの画学校が府から市に移管され、その後、市立絵画専門学校、市立美術専門学校と変遷を重ねて、1950年に京都市立美術大学となりました。

音楽学部は1952年に創設された市立音楽短期大学を前身とします。

これら市立美術大学と市立音楽短期大学が1969年に統合され、美術学部と音楽学部から成る京都市立芸術大学が創設されました。

大学院の歴史は1980年の美術研究科修士課程設置から始まります。1986年に音楽研究科修士課程、2000年には美術研究科に博士（後期）課程を設置すると共に美術修士課程保存修復専攻を新設しました。

さらに音楽研究科博士（後期）課程を2003年に設置したことで、美術・音楽ともに学部から修士・博士課程までの一貫した高等教育の体制を実現しました。

日本伝統音楽研究センターは、伝統芸能文化の宝庫・京都に相応しい日本伝統音楽の研究機関として2000年に設置されました。

21世紀に入り、世界において芸術の創造活動の重要性は益々高まりつつあります。

本年、2010年には130周年を迎え、日本でも最も長い歴史を持つ芸術大学として、また、未来を担うに足る最も現代的な芸術大学となるため、教育・研究・指導の充実に努力を続けています。

GALLERY

～過去と現在のシーンから～



京都市美術工芸学校(美工)の制服

明治28年当時は、このような制服を着用していました。

オペラ公演 「コジ・ファン・トゥッテ」

昭和54年1月23日、京都会館第二ホールにて上演。



芸大作品展搬入

いざ、美術館へ！
全員の作品を展示するのは、
今も昔も大変な作業です。



クラブ活動

写真は、大正13年頃の演劇クラブの活動の様子。かつては他に庭球(テニス)部や馬術部、弓道部などもありました。

絵専野外教練

戦時中は絵画専門学校生も絵筆を武器に持ち替え、軍事訓練が行われていました。
写真は昭和16年の様子。



仮装行列

かつての学園祭のメインイベント。
昭和27年の美大祭にて。



近年の主な受賞歴等 (在校生・卒業生・本学関係者)

美術学部・美術研究科

木村 秀樹 (本学教授/版画) 第21回 京都美術文化賞、平成20年度 京都府文化功労賞
 秋山 陽 (本学教授/陶磁器) 第21回 京都美術文化賞
 やなぎみわ (1991年修了/染織) ヴェネチア・ビエンナーレ 美術展 53回 日本館展示
 山崎 隆夫 (名誉教授) 第40回 日展内閣総理大臣賞
 宮下 善爾 (1964年卒/陶磁器) 第40回 日展文部科学大臣賞
 井川 健 (2009年修了/漆工) 第8回 国際漆展・石川2009 大賞
 三浦 景生 (名誉教授) 京都新聞大賞文化学術賞
 中井 貞次 (名誉教授) 平成20年度 日本芸術院新会員
 久保田繁雄 (1973年修了/染織) 平成20年度 京都府文化功労賞
 三木 啓吾 (啓樂) (1994年卒/漆工) 平成20年度 京都府文化奨励賞
 三瀬夏之介 (1999年修了/日本画) VOCA展2009「VOCA賞」
 三橋 達 (本学教授/染織) 第22回 京都美術文化賞
 若木くるみ (2008年卒/版画) 第12回 岡本太郎現代芸術賞 (TARO賞)
 井田万樹子 (1997年卒/ビジュアルデザイン) 社団法人日本広告業協会 2008年度「クリエイター・オブ・ザ・イヤー賞」メダリスト、2008年度ACC総務大臣賞グランプリ
 村山 春菜 (2009年修了/日本画) 第41回 日展特選

音楽学部・音楽研究科

佐渡 裕 (1984年卒) 平成20年度 京都府文化功労賞
 高野 裕子 (博士3回生/音楽学) 2008年度 柴田南雄音楽評論賞 奨励賞
 酒井 健治 (2000年卒/作曲) 2009年度 武満徹作曲賞 1位
 中村 典子 (本学講師/作曲) 2009 Asian-Pacific Contemporary Music Festival 室内楽部門 入選
 神谷 郁代 (本学教授/ピアノ) 第21回 ミュージック・ペンクラブ音楽賞(クラシック部門録音・録画作品)
 内藤 裕子 (2009年修了/ピアノ) 平成21年度 京都市芸術文化特別奨励者 認定
 杵野勢津子 (2007年卒/管打楽) フェルモ国際打楽器コンクール(イタリア) マリンバ部門 第1位
 玉木 優 (2003年卒/管打楽) 第26回 管打楽器コンクール トロンボーン部門 第1位
 田内 愛 (修士1回生/声楽) 第63回 全日本学生音楽コンクール 大阪大会本選 大学一般の部 第2位
 小林久美子 (1998年修了/声楽) 第1回 東京国際声楽コンクール 一般の部 第1位 東京都荒川区長賞
 泉 萌子 (3回生/声楽) 第63回 全日本学生音楽コンクール 大阪大会本選 大学一般の部 入選
 畑 奨 (4回生/声楽) 第63回 全日本学生音楽コンクール 大阪大会本選 大学一般の部 入選
 向井 悠 (修士1回生/声楽) 第63回 全日本学生音楽コンクール 大阪大会本選 大学一般の部 入選
 黒川 智庸 (修士1回生/声楽) 第63回 全日本学生音楽コンクール 大阪大会本選 大学一般の部 入選

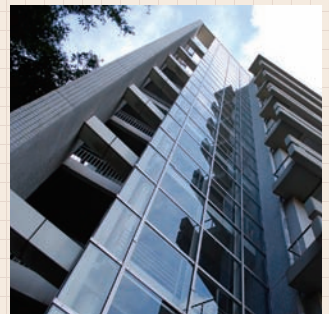


学内ギャラリー

一年を通じて、各専攻の課題作品をはじめ、様々な展示を行います。

新研究棟

本学の創立120周年を記念して2000年に設立されました。博士課程や、2010年度に設立10周年を迎える日本伝統音楽研究センターが設置されています。



四条ストリート ギャラリー

四条繁栄会商店街振興組合との連携企画で、2007年より毎年開催しています。学生の作品が四条通のあちこちに展示されます。



オペラ公演

写真は2008年、京都大学時計台記念館にて開催した「クロックタワー・コンサート」の様子。

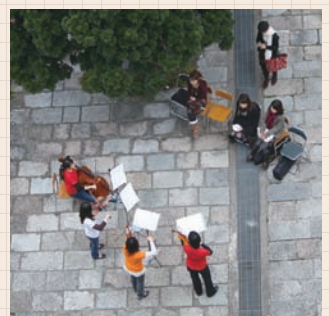


大学会館

円形ホールや情報処理室、交流室などからなる複合施設。1994年に設立しました。

キャンパス内での ひとコマ

音楽学部生による野外ミニコンサートの様子。



Characteristic 本学の特徴

Exhibitions

全学年が出展する作品展など

美術学部 / 大学院美術研究科

京都府画学校創立以来、数度名を変え土地を変えて、あり続ける本学美術学部。古い伝統と新しい風の交わりにより、学生たちは様々な刺激を受け成長します。

毎年恒例の作品展は2月に行われます。他学と異なる点は、卒業年生のみならず、学部1年生から大学院修士課程2年生までの全学生が作品を展示するところです。京都市美術館や学内で約1週間展示し、搬入・陳列・搬出まですべて学生自ら行います。大きな美術館での発表を、学部卒業までに4回も経験できることは、発表の現場で得る緊張感と経験値を得るためにも非常に貴重であるといえます。

また、学内のギャラリーでは、年間を通じて各専攻の課題作品の展示や、学生個々の企画によるグループ展や個展が続々と企画・開催されます。

その他、地域イベントなどの企画にも参加し、街の中でより多くの方々に学生の日々の成果を見ていただくための取り組みも行っています。



昭和25年 美大開学記念作品展



平成20年度 作品展



芸大ギャラリーでの展示



大学会館 円形ホールでの展示



サマーアートスクール 合評風景

Column

芸大今昔 ～芸大祭編～

大学の催しとして、毎年11月に開催される「芸大祭」は、美術学部・音楽学部の両学生が共に盛り上げていく催しで、中でも模擬店は美術学部の学生が腕をふるって装飾を施し、実に凝った店舗を作ることで人気があります。3日間続くこのイベントは、美術学部生の作品展示、音楽学部生の演奏会のほか、ミュージカルサークルの公演や趣向を凝らしたパフォーマンスなど、見どころが盛りだくさんで、毎年好評を博しています。

美大時代の「美大祭」では毎年、仮装行列が行われていました。京都のメイン通りである四条通を闊歩し、人々を驚かせ、また楽しませていました。このように、今も昔も、芸大生ならではの発想で様々な催しが行われています。



昭和34年の仮装行列の様子

Concerts

定期的に行われるコンサートや公演など
音楽学部／大学院音楽研究科

本学の音楽学部／大学院音楽研究科では学生の演奏会出演の機会が非常に多いことが特徴です。年3回開催される定期演奏会、市内各地の演奏会場で行われるオーケストラコンサート、室内楽コンサート、独奏会、オペラ公演、大学内での火曜コンサート等大規模なものから小規模なものまで数多く開催されております。これらのコンサートの中には企画・広報の段階から学生たちの参加を求められるものも多々あり、企画力・コミュニケーション能力を高める機会ともなっています。演奏会内容もさまざまであり、高度に芸術的なものから、地域貢献や小・中・高等学校との連携を視野に入れた親しみやすいコンサートなど、多種多様のプログラムを提供しています。

学生は学内での充実したレッスン・授業とともにこのような実践の場を数多く経験しながら音楽家としての社会的発信力を身につけていきます。



昭和28年 第1回定期演奏会



平成21年 第133回定期演奏会

定期的に行われるコンサート・公演 (2009年度現在)

定期演奏会(年3回)／大学院オペラ公演／卒業演奏会／ピアノフェスティバル／ウェスティ「音暦」シリーズ／京都国立近代美術館ホワイエコンサートシリーズ／文化会館コンサートシリーズ／京大時計台記念館コンサートシリーズ

京都国立近代美術館ホワイエコンサートの様子



Column 芸大今昔 ～音楽学部・第1回定期演奏会はこんな演目でした～

1953(昭和28)年11月17日(火)、第1回定期演奏会が弥栄会館(京都市東山区)にて開催されました。

当時は京都市立音楽短期大学(写真:このページの上から1番目)

- 演目 ● ヴィヴァルディ／ヴァイオリン協奏曲イ短調
● バッハ／マグニフィカートニ長調(抜粋)
● 京都市歌 ― 合唱と管弦楽
● ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲
● ベートーヴェン／交響曲第二番ニ長調

最近の公演は、2009(平成21)年12月4日に京都コンサートホールで開催された、第133回定期演奏会。

(写真:このページの上から2番目)

- 演目 ● ワグナー／「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より前奏曲
● ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱付き」








当時のプログラム

Schedule 2010年 今後の予定

最新情報は、本学ホームページ
<http://www.kcua.ac.jp>
をご覧ください。




美術学部

Fine Art, Design & Craft



- 2月10日(水)～14日(日) 作品展2009(京都市美術館 本館・別館、京都市立芸術大学) <入場無料>
- 4月2日(金)～ 京都市立芸術大学ギャラリー オープン記念展「きょう・せい」(京都市立芸術大学ギャラリー) 
- 6月 東アジアにおける岩彩画の展開 (京都市立芸術大学ギャラリー) 
- 7月9日(金)～8月22日(日) Trouble in Paradise/生存のエシックス (京都国立近代美術館) 
- 9月 進化のものがたり (京都市立芸術大学ギャラリー) 
- 9月25日(土)～11月7日(日) 京都日本画の誕生(仮称) (京都市美術館 本館) 

音楽学部

Music

- 2月19日(金)・20日(土) 第25回 大学院オペラ公演 (京都会館第二ホール) 
● 開演/19日:午後6時30分、20日:午後3時 <入場料(全席指定): S席 4,000円、A席 3,500円>
- 3月21日(日) 第38回 卒業演奏会 (京都市立芸術大学 講堂) ● 開演/午後2時 <入場無料>
- 7月4日(日) 第135回 定期演奏会 (京都コンサートホール・大ホール) ● 開演/午後2時(予定) <入場料:1,200円> 
- 12月5日(日) 第136回 定期演奏会 (京都コンサートホール・大ホール) ● 開演/午後2時(予定) <入場料:1,200円> 

日本伝統音楽研究センター — Reserch Centre for Japanese Traditional Music

- 3月6日(土) 公開講座 芸能における「笑い」(京都芸術センター) <受講料:前売 3,000円、当日 3,500円> 130周年プレ事業
- 6月26日(土) 公開講座 第三の能狂言 — 鷺流の伝承 — (仮称) (大江能楽堂) <受講料未定> 
- 11月7日(日) 公開講座 京の芸能に見る創造の可能性 — 見え隠れする本歌取りの精神 — (仮称) (京都市立芸術大学 講堂) <受講料未定> 

Coming soon !!

京都市立芸術大学ギャラリー (2010年度設置予定)

2010年4月、京都市中京区の元城巽中学校跡地に
移転予定の京都堀川音楽高等学校に併設します。主に
展示室の形式での運営が予定されており、交通の便の
良い環境を十分に活かした活用を目指します。



イメージ図

